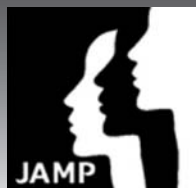


2016 年 6 月 1 日発行

一般社団法人 日本顎顔面補綴学会

Japanese Academy of Maxillofacial Prosthetics



Newsletter No. 23

Maxillofacial Prosthetics

発行人 鱒見進一

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

次世代育成事業「若手研究者短期海外研修」



国際交流委員会委員長 尾澤 昌悟

国際交流委員会ではこれまで ISMR のような海外学会と本会の連携事業を行なうこと、および会員の国際学会での発表に便宜を図るべく活動してきました。今回、鱒見理事長と特命委員会の谷口委員のご発案で次世代育成事業が発足し、本委員会が若手研究者短期海外研修プロジェクトのお手伝いをする事となりました。このプロジェクトは本学会がコーディネーターを選出し、そのコーディネーター方のネットワークを生かし、海外の顎顔面補綴に関する研究および診療を実施している施設での短期研修を行うことを企画運営するものです。対象は本学会の若手会員です。詳しくは下記の研修概要および、学会のホームページをご覧ください。

本学会からは海外研修施設までの往復の航空券と、オリエンテーション交通費を援助する予定です。インターネットが普及し、海外のニュースもリアルタイムで情報を手にすることができる昨今ですが、実際に現地に出向いて体験することにより得られるものはとても貴重であると考えます。

第一回目の海外研修は、米国カリフォルニア州のサンフランシスコにある University of California at San Francisco (UCSF) を予定しています。コーディネーターは東京医科歯科大学の隅田由香先生が引き受けていただきました。研修内容は UCSF の顎顔面補綴科を担当する Arun Sharma 教授のクリニックの見学、そして補綴科および頭頸部カンファレンスの見学を含む 3 日間のプログラムです。

Arun Sharma 教授は UCSF の補綴科の主任であり、歯学部での補綴学教育や研修医の指導を担当しています。また臨床においては、UCSF Craniofacial Center の顎顔面補綴医として、頭頸部腫瘍患者の治療にあたっています。アメリカ顎顔面補綴学会 (AAMP) や国際顎顔面リハビリテーション学会 (ISMR) でも理事を務める重鎮であり、Maxillofacial Rehabilitation をはじ

め多くの著書を出版しています。このような施設を訪れることができるのは、若手の先生にとってとても勉強になると確信しています。是非、多くの方の応募をお待ちしています。

今後とも国際交流委員会の活動にご理解とご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

若手研究者海外短期研修 概要

目的：顎顔面補綴学の発展に寄与する国際的・学際的な研究者の育成を振興する事業の一環として、一般社団法人日本顎顔面補綴学会若手会員の海外研修を促進するため、この事業を行う。

日程：2016年11月14日～16日

研修施設：UCSF（米国、サンフランシスコ）

研修内容：Sharma教授による顎顔面補綴に関する抄読会に参加および、補綴科見学。UCSF Craniofacial Centerの顎顔面補綴治療の見学、UCSF 頭頸部カンファレンスに参加。



Arun Sharma 教授（UCSF）

交通費：学会が援助（手続き方法は別途案内）。

宿泊：各自手配。

応募資格：本学会の会員であり、30歳以下で大学院博士課程在籍中のもの、または35歳以下で既に博士号を有するもの、あるいは本学会の認定歯科衛生士、認定歯科技工士、認定言語聴覚士の資格を有するもの。

応募方法：学会ホームページに応募要項を掲示。

2015年度優秀論文賞受賞者の声



加藤 裕光

東北大学病院診療技術部歯科技術部門技工室

3D デジタル技術を利用した
た栓塞部中空型顎義歯の製
作法とその物性の検討

顎顔面補綴 38(2)：35-42

このたびは、2015 年度日本顎顔面補綴学会優秀論文賞という名誉ある賞を戴き、大変光栄に存じます。ご指導いただきました査読の先生方、編集委員の先生方にお礼を申し上げます。

近年、コンピュータ技術の進歩により医療領域においても、その技術は幅広く応用されてきています。これらの3D デジタル技術を顎顔面再建治療へ応用する一環として研究に取り組みました。

本研究は、栓塞部中空型顎義歯を製作する際に、臨床上の問題点を克服する目的で、3D デジタル技術を用いた製作方法を考案しました。光学式3D スキャナーで顎模型をスキャンし、モデリングソフトウェアにて中空型栓塞子の STL データを作成、これを積層造形装置で中空型栓塞子の造形を行い製作する方法です。しかし、この手法には造形材料等の問題点が存在し、論文を作成する上で数多くの壁に当たり、多数の先生方にお力添えをいただきました。顎顔面口腔再建治療部の小山先生、歯科生体材料学分野の高田先生、高橋先生には、終始ご指導を頂きましたこと心より御礼申し上げます。本研究が今後の顎義歯製作の一つの手段として少しでも役に立つ事ができれば、これ以上の喜びはありません。

最後になりましたが学会の諸先生方にお礼を申し上げますと共に、今後の学会の発展をお祈りいたします。今後ともご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



宮前 真

愛知学院大学歯学部高齢者
歯科学講座

下顎骨切除患者における下
顎運動に関する検討
顎顔面補綴 38(2):25-34

この度は、2015 年度優秀論文賞をいただきまして、誠にありがとうございます。まず、丁寧な査読をしていただいた先生方や、編集委員会の先生方に厚く御礼申し上げます。また、研究を遂行するにあたり、多くのご助言・ご協力をいただきました当院顎顔面補綴科の医員各位に感謝いたします。

この論文は、私が顎顔面補綴の臨床に携わり始めた約 20 年ほど前から、顎骨切除患者の QOL の回復のためにはやはり客観的な評価も重要であると考え、その一環として行われた下顎運動の評価の一部を纏めたものです。先人の論文を参考にしながら、下顎運動分析装置を用いて連続離断患者における顎頭と切歯点の動態を評価しましたが、中でも健側顎頭の 3 次元的な移動方向と軌跡幅径を分析したところ、健常者と同等の安定した運動が可能であることを確認したことが特徴であると考えています。学会員の先生方におかれましても、下顎骨切除患者の顎義歯製作にあたり、その対応に苦慮した経験を多くお持ちであることは私と同じかと思いますが、本研究あるいは本研究をさらに発展させることで、実際の臨床現場における下顎骨切除患者の咀嚼能力の改善に少しでも寄与することができればと期待しているところです。

最後になりますが、本学会の益々の発展をお祈りするとともに、今後も変わらぬご指導、ご助言をいただけますようお願い申し上げます。

海外留学だより



中島 純子

防衛医科大学校
歯科口腔外科

2015 年 9 月より 1 年の予定でアメリカ・サウスカロライナ州の Medical University of South Carolina 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の Evelyn Trammell Institute for Voice and Swallowing に留学をしております。州唯一の医大で医療圏は州内全域と隣接するジョージア州の一部におよび、当講座の頭頸部腫瘍の新患数は約 120 名／月になります。部門の教授 Dr. Martin-Harrisのもと、2 名の耳鼻科医と 27 名の speech-language pathologist (SLP) が頭頸部腫瘍、小児、神経疾患外来患者、成人のグループに分かれ、嚥下障害、構音障害の評価や訓練を院内各所で活発に行っています。



Medical University Hospital of South Carolina

本部門では嚥下造影検査は規格化された手順 (MBS) で行い、検査の評価の標準化は厳しく要求されています。ソフトでトレーニングを重ね、最終的に 10 名の患者の動画の 17 項目の評価で 80%以上の正答が得られるまで、その評価者は信

用されません(80%を取るのはかなり大変でした)。認定者による評価結果は連結可能匿名化されデータベースに登録し、臨床研究にも使用されます。



Martin-Harris 教授、筆者と顎顔面補綴のスタッフ

私は頭頸部腫瘍の SLP チームについていますが、SLP は Tumor board やカンファレンスに参加し全ての新患のカルテをチェックし、嚥下障害等が生じる可能性のある症例は術前から訓練を開始します。しかし米国は入院期間が短く、PEG を作る事が多く、医療保険制度の相違や遠方の患者も多いため、フォローが途切れる事も多く残念です。研究面では高解像度マノメトリーを用いた嚥下動態や MBS の解析にも参加をしています。

大学に歯学部もありますが、Dr. Davis が主任の顎顔面補綴のクリニックは医学部の本講座内にあり、こちらにもお世話になっています。新患数は 250～300 名／年、約 3/4 が頭頸部腫瘍患者、20% が先天性疾患、その他、睡眠時無呼吸症候群も担当しています。顔面補綴症例は年間 30 症例弱で、様々な欠損形態の症例に接していますが、医療費が 100 万円ほどかかるのには驚きました。

今回私はお世辞でも若いとは言われない年齢で、子供 2 人を連れての単身留学（主人は留守番）となりました。Kindergarten の宿題に手こずり、子供の迎えを忘れ、と失敗や苦労、制約が多いのも事実です。留学も適齢期があるとは思いますが、晩留でも子連れ留学でも得るものはあり、気力と勇気と勢い、そして周囲のサポートで乗り切っています。全て期待通りとはいきませんが、そのようなことから得られる経験も貴重なのかもしれません。最後に今回、快く送り出して下さった横江教授と家族に感謝するとともに、今後様々な立場の方が留学に挑戦され、それを理解しサポートされる方が増えて下されば嬉しく存じます。



チャールストンの街並み

認定医・認定士

平成 27 年度の認定士合格者は以下の先生方です。おめでとうございます。

認定歯科衛生士（新規）：星合 愛子
認定歯科技工士（新規）：山越 典雅

認定歯科衛生士（更新）：瀬戸 純子、本 橋 碧
認定歯科技工士（更新）：薄木 省三、早 川 浩

関連学会報告

第 29 回日本口腔リハビリテーション学会

さる 11 月 14・15 日に徳島市の徳島大学長井記念ホールにて第 29 回口腔リハビリテーション学会学術大会が開催された。「多職種連携による在宅医療の今後」を大会テーマとして、特別講演ほかと一般口演（19 題）が行われた。大会直前には認定研修医セミナーがあり、講師は本学会理事の舘村卓先生が務められた。「口腔機能リハビリテーションのためのシーティング・ポジショニング -From the Hip To the Lip-」と題し、実技を交えたわかり易いセミナーであった。

特別講演は中野雅徳名誉教授（徳島大学）が「要介護高齢者に対する質の高い口腔ケアの実践を支援する ICT システム」を、教育講演は北村清一郎教授（森ノ宮医療福祉大学）が「口腔リハビリ

テーションを行う上で必要な解剖学の知識」を講演された。シンポジウムⅠ「在宅医療に関する医療制度」では秋野憲一先生（厚生労働省）、和田明人先生（徳島県歯科医師会）、鍋島史一先生（福岡県メディカルセンター）による、シンポジウムⅡ「在宅医療の実際と今後」では河野美枝子先生（徳島県歯科衛生士会）、高橋賢晃先生（日本歯科大学）、山口貴功先生（徳島県歯科医師会）による講演と討議が行われ、聴衆は熱心に聞き入っていた。（広報委員長 松山美和）



シンポジウムⅠのディスカッション

第3回顎顔面補綴技工研修会

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン支持療法委員会が主催する「第3回顎顔面補綴技工研修会」が平成28年2月5日（金）に東京歯科大学水道橋校舎本館14F大会議室で開催された。本研修会は「口腔ケアセミナー」と「摂食嚥下リハビリテーション研修会」とともに、同委員会が主催する研修会のうちの1つに位置する。今回は日本大学の大山哲生先生に「顎顔面補綴治療における歯科医と歯科技工士の良好な連携のために」、同大の納村伸弘技工士に「日本大学歯学部付属病院における顎顔面補綴技工の実際」と題した御講演を戴き、参加者76名（歯科医師45名、歯科技工士25名、歯科衛生士2名、学生他4名）を集めた。大山先生には、日本大学付属病院で構築されている口腔がん患者のチーム医療について多くの貴重な症例を御紹介いただきながら、また、納村先生には、顎義歯、ISOの技工ステップについて細部にわたるテクニックを御紹介いただき、

その精巧な作業に会場から驚きの声上がる場面もあった。参加者にとって、顎顔面補綴分野のトップランナーの1校である日本大学の臨床を知る大変貴重な時間となったと、研修会コーディネーターとして自負している。

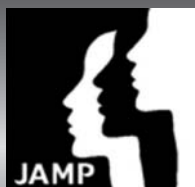
本研修会の過去の参加者は第1回が30名、第2回が51名であり、回を重ねる毎に参加者が増えている。参加者名簿を見返すに、これまでの2回の研修会参加者の多くの方に今回も参加いただいたことに気付く。これは、過去、本研修会にて御講演いただいた東京医科歯科大学の隅田由香先生、北海道大学の西川圭吾先生の大変興味深く有意義な御講演があつてのことと容易に察することができる。この場をお借りして併せて感謝申し上げます。（東京歯科大学 石崎 憲）



顎顔面補綴技工研修会風景

関連学会のご案内

- 第34回日本顎咬合学会学術大会・総会
会 期：2016年6月11日～12日
大会長：上濱 正（日本顎咬合学会 理事長）
会 場：東京国際フォーラム
問合せ：第34回学術大会事務局
E-mail：gakujutsu@ago.ac
- 日本補綴歯科学会 第125回学術大会
会 期：2016年7月8日～10日
大会長：前田芳信（大阪大学大学院）
場 所：石川県立音楽堂・ANA クラウンプラザホテル金沢
問合せ：準備事務局（日本旅行 ECP 営業部）
E-mail：jps_125@nta.co.jp



Newsletter No. 23

Maxillofacial Prosthetics

●第29回日本顎関節学会

会 期：2016年7月17日～18日

大会長：久保田英朗（佐賀大学医学部）

会 場：湯本富士屋ホテル

問合せ：大会事務局：佐賀大学医学部 歯科口腔外科学講座

E-mail：29thtmj@gmail.com

運営事務局：エス・ティー・ワールド コンベンション事業部

E-mail：jstj_29@stworld.co.jp

●第21回日本口腔顔面痛学会

会 期：2016年9月24日～25日

大会長：岩田幸一（日本大学歯学部生理学講座）

会 場：神奈川県歯科医師会館ホール

問合せ：学会事務局（日本大学歯学部 口腔診断学講座）

e-mail：imamura.yoshiki@nihon-u.ac.jp

●第26回日本口腔内科学会・第29回日本口腔診断学会合同学術大会

会 期：2016年9月23日～24日

大会長：

日本口腔内科学会：佐々木 朗（岡山大学大学院）

日本口腔診断学会：浅海 淳一（岡山大学大学院）

会 場：さん太ホール・さん太ギャラリー・山陽新聞本社ビル9階大会議室

問合せ：

日本口腔内科学会 準備委員長：志茂 剛

E-mail：jsom2016@okayama-u.ac.jp

日本口腔診断学会 準備委員長：柳 文修

E-mail：ya7@md.okayama-u.ac.jp

●第23回日本歯科医学会総会

会 期：2016年10月21日～23日

会 場：福岡国際会議場・福岡サンパレス

会 頭：水田祥代（学校法人福岡学園福岡歯科大学・理事長）

問合せ：準備室（日本コンベンションサービス）

E-mail：jads2016@convention.co.jp

●第30回日本口腔リハビリテーション学会学術大会

会 期：2016年11月19日～20日

会 場：京都市国際交流会館

問合せ：第30回学術大会事務局

E-mail：30jaor@cc.osaka-dent.ac.jp

皆様のご意見をお寄せください。

一般社団法人日本顎顔面補綴学会広報委員会
委員長 松山美和

委 員 大木明子、関谷秀樹、中島純子、
堀 一浩、宮本哲郎、吉岡 文

E-mail：max-service@onebridge.co.jp